

秘

大正十三年六月調

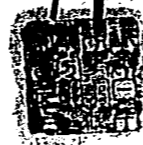
朝鮮合對工施反  
一版

海龍領事分館管內  
朝鮮人事情調査復命書

15  
3  
號

海龍分館警察署長

警部 小澤 耕作



目次

一 本邦人未任、沿革及取締機關設置	頁一
一 在留本邦人職業、資金及生活	二
一 本邦人不正業者、對之支那官憲取締	二
一 不正營業者、對之出張所取締	四
一 本邦人不正業者、對之取締上見	六
一 朝鮮人移住、沿革及戶數人口	七
一 在留朝鮮人、生活狀態	八
一 朝鮮人、資産狀態	一〇
一 在留朝鮮人、職業別	一〇
一 朝鮮人、産業狀況	一三
一 副業	一五
一 自作農及小作農區別	一六
一 耕地、面積及收穫高	二〇
一 土地、地租、狀況	二二
一 水利、關係	二六
一 支那官憲、徵收及稅金種類別	三四
一 朝鮮人會社、狀況及支那事業	二五
一 朝鮮人、利用、金融機關狀況	二七
一 朝鮮人、教育、概況	二八
一 朝鮮人、宗教、狀況	三七
一 朝鮮人、衛生、狀態及醫務機關、狀況	三九

在留朝鮮人、職業別

一、言論檢閲及之、取締状況	四〇
一、支那官憲、移任、對之態度	四一
一、對人、支那官民、對之感想	四二
一、對人、帝國官民、對之感想	四三
一、不逞、對人、狀況及之、取締状況	四四
一、不逞、對人、對支那官憲、取締状況	四五
一、馬賊、狀況及之、取締状況	四六
一、支那警備、檢閲配置状況	四七
一、支那軍警、對人、保護、長夜	四八
一、在留、對人、保護、取締、同、不、昇、見	四九

附表目次

一、在、對人、口、之、數表	一
一、本、對人、職業、資、產、取、引、其、他、調、査、表	二
一、朝鮮人、作、付、友、別、及、商、担、別	三
一、管、以、朝鮮人、進、夜、調	四
一、對、對、支、人、患、者、調、査、表	五
一、不、逞、對、人、因、被、害、調	六
一、對、對、人、馬、賊、被、害、調、査	七
一、支、那、警、備、檢、閲、調	八
一、海、龍、物、部	九
一、輝、南、縣、部	一〇
一、柳、河、縣、部	一一

在鐵嶺領事館海龍分館

目次終

一、本邦人來住、沿革及取締機關、設置  
 留館管內、姑々本邦人、來住シタル、明  
 治四十年前後、シテ留館特設海龍縣北山  
 城、本邦人、在焉者、約百數十名、  
 うち、本邦人、未ダ戦後、殺伐タル、  
 少シ、然レモ、親漢ノ、ニテ、孰モ支那官吏  
 取締、服、公、公然詐欺、賄、  
 不、正、金品、捲、上、地方、良俗、壞、  
 在、コト、甚、タ、レ、モ、ノ、アル、以、テ、所、轄、鐵、道、  
 事務、於、之、屬、々、警察、官、ノ、疏、シ、  
 去、歲、向、リ、對、シ、セ、シ、ン、ト、モ、彼、等、ハ、蟻、  
 ノ、甘、味、ニ、集、中、シ、タル、等、シ、テ、警、察、官、ノ、  
 折、リ、見、方、欣、然、ト、シ、由、ニ、舞、臺、ル、  
 是、レ、一、時、的、取締、ニ、於、テ、効、果、ヲ、見、  
 ン、キ、モ、ノ、ナ、キ、ニ、  
 一、在鐵道領事館海龍分館

大ナルヲ以テ大正三四年ノ支前記地方  
ニ至ルニ警察官ノ配置シ之ヲ取締  
シ勵行セシメ居リテ今五年海龍ノ旅  
ハ爾後ニヨリテ未ダ滿洲ノ支前ノ概況  
ヲ勵シテ警察官ノ善導ヲ努ム  
ルト共ニ不正當業中ニ公然違背取締  
ノ情ナキ者ニ對シテハ引續キ退去者  
ヲ行ハスル爲メ昨今ノ在りテ取  
時代比シテ著シク減少シテハ詳細ノ列表  
ヲ見ル(第一新表)

二、在り本邦ノ職業者、資本金及生活狀態  
管轄ニ在り本邦人ノ職業者、資本金及生活  
狀態ニ附テ第二新表、場記、通シ、執

在鐵嶺領事館海龍分館

三、近年、若シハ十數年前、對テ資力者、未  
任シ候也、金貸業、ノ標榜シテ、客、ノ標  
別品、ノ販賣、ノ相備、資本金、又、著、ノ店  
ルモ、少年、ノ放縱、生活、ノ趣、ハ、彼等、ノレ、ノ  
墮落、ノ程度、ノ増長、ナリ、モ、此、ノ為、ノ、或、今  
日、ノ禁止、命令、ニ付テハ、聊、ハ、不自由、ノ感、ハ  
無、ナリ、モ、シ、モ、ワ、ラ、サ、ル、モ、各、地、ト、モ、又、相、備、ノ、正  
業、アル、ニ、付、現在、ノ、資、金、ノ、以、テ、支、ル、斯、業、  
ハ、努力、ナル、於、テ、ハ、向、後、ノ、於、テ、モ、生、活、ノ、向、キ、  
不、安、ヲ、来、ル、憂、ナ、ル、ヲ、詳細、ハ、附、テ、第、二、新  
表、參、照、

三、本邦ノ不正當業者、對テハ支那官憲ノ  
取締振

管領之姓ヲ本邦人、未使シタルハ第一項  
 未使、沿革ニ揚記セル通ハシテ滿特ハ  
 日露戦役後、未シ、或何ソ出テカニ為メ  
 支那官民、却テ、若實タル本邦人、未  
 使シ、歡迎スル傾向アリタルヲ以テ、毎類、徒  
 ハ、然、長、高、人、体、ヲ、裝、フ、テ、入、テ、之、公、然  
 詐、期、點、傳、シ、同、張、シ、又、ハ、禁、制、品、(モ、ル、ト  
 不、阿、化)、ノ、販、賣、シ、本、業、ト、為、シ、之、ノ、官、署  
 ノ、支、那、種、織、陳、設、級、者、及、ホ、ス、コ、ト、甚、ク  
 シ、キ、セ、ノ、ヤ、リ、タ、ル、ニ、銀、ノ、所、轄、知、事、ノ、新  
 下、ニ、駐、在、ス、ル、各、警、察、署、長、ノ、命、シ、テ、  
 之、ノ、取締、シ、勵、行、セ、レ、メ、ト、シ、タ、ル、モ、滿、特  
 地方、ニ、駐、在、ス、ル、支、那、軍、官、ノ、官、職、ノ、利  
 用、シ、テ、怨、ハ、阿、化、ノ、吸、食、シ、又、ハ、本、邦、人、ノ  
 不、正、業、者、ト、結、託、シ、テ、阿、化、ノ、販、賣、ス、ル  
 等、軍、官、ノ、横、暴、ハ、根、底、ヲ、知、事、ノ  
 方、策、ヲ、蹂、躪、シ、返、ニ、取締、シ、不、能、ニ、至、  
 リ、レ、メ、タ、ル、結果、ハ、同、ニ、於、テ、良、民、ハ、水  
 賊、ヲ、失、ハ、タ、ル、者、或、ハ、富、窮、ノ、餘、ヲ、妻  
 子、ヲ、離、別、ス、ル、者、又、ハ、勞、働、ヲ、厭、ハ、テ、  
 強、弱、差、リ、痛、ク、為、甚、シ、ク、場、所、ニ、モ、  
 ナ、ラ、ズ、最、近、ハ、於、テ、右、ニ、因、リ、支、那、人、對  
 本、邦、人、ニ、忌、ム、バ、キ、不、祥、事、件、ノ、頻、発  
 ナ、ル、ヲ、見、ル、ニ、至、リ、タ、ル、ヲ、以、テ、支、那、官、署、  
 ハ、之、等、本、邦、人、ノ、不、正、業、ヲ、嚴、禁、セ、ラ、  
 レ、シ、コ、ト、ノ、滿、特、ノ、圖、告、ス、ル、ト、同、特、

在鐵嶺領事館海龍分館

各警察及保甲。命之曰國民、取締  
之徹底の一新行せし居ん。件當館ニ  
於て不正營業者、存在ハ唐、日支  
人ノ發見阻害ニ止マラズ。前類ノ  
如キ犯罪者ヲ出ス。正義十人道上ノ  
見地ヨリ點過。又チモノハアラサルヲ以テ  
逐々今田ノ警ニ出ラタムモノナリ  
四、不正業者ニ對シ出張新、取締振  
當館管办、警察官使出張新羽張  
四十年以降、後新轄鐵嶺領事館  
警察署ニ於テ隨時極要、地域、旅  
置セラレタムモノナリ。大正五年當館ノ  
開設ヨリ是等ノ職、館務運用  
四 在鐵嶺領事館海龍分館  
上當館、指揮監督ノ下、管内ノ警  
察事務ヲ執行スルコトナリ。モ人等  
ニ對シ實権ハ依然鐵嶺本署ニ收  
屬ナル關係上、公署、方針ニ遵、從  
ハ當館、主義方針ニ及ナル行爲動  
ハ出ラレトスル虞アルヲ以テ、本年二月支  
隊一同ノ當館ニ召集、不正營業者  
ノ取締方ニ關シ特ニ訓示ヲ與、タルモ  
出張新職員等ハ出張新設置ト同  
時ニ在り不正營業者ヲ「ホ」及電報  
科ヲ供給セラル、外出出張新員、政界  
上年數回支那官憲ヲ招待スル費用  
モ先テ留境セシメ居ル物原的情實ニ

提ハレ親モ之等不正業者ノ對シ尙  
 能ノ命令通リ取締リ勵行シ得ザル  
 常弊ヲ減シ居ル就中南山城系  
 及様々明ノ如キ方おん在る民々  
 之等ノ費用ヲ負擔セシムル地ニ於テ  
 ハ人情上却テ不正業者ヲ獎勵セザル  
 ヲウカシ結果ニ陥ルヲ從テ今級之等  
 ノ取締リ徹底的ノ所行セント應モハ先  
 ツ現在ノ常弊ヲ矯正スルト同時ニ事  
 實改良ノ出張所員ヲ交代セシムルヲ  
 一ノ要諦トシモ上述ノ通り出張所ニ  
 對シ人事ノ實権ハ錢谷本署ニ屬  
 スル爲メ公署ノ取締リ得ハ容易ク實  
 行シ得ルカ如キ觀アルモ公署ハ徒來於  
 テモ尙館ノ去義方策ヲ監視シテ恣  
 ニ出張所員ヲ處置シ館務ノ運用ヲ  
 妨ゲルコト一由ニ止マラサルノコト  
 赴任ヒ山本署長ハ尙館員モ自己指  
 揮下ニアルモノ、如キ見解ヲ持シ居ルニ付  
 今級板ノ件ニ關シ公署ノ取締リ得テ  
 實行スルコト甚ク不可能ナレバ尙署員  
 一隨時出査シ出張セシメテ之ヲ取締リ  
 處スノ外他ノ方策ナカルマレ尙出張所  
 所在地及居住人員ヲ舉テ左ノ如シ  
 記

在鐵嶺領事館海龍分館

所在地 警察官數  
 一史、地、政、情、類  
 一供、樂、者、數





開東之難於其根幹見不正業房對  
嚴重ナル取繕ヲ為ルニ相ラサレバ之ハ撲滅シ  
期タルト絕對ニ不可能ナリト專科大

六、朝鮮人移住ノ沿革及テ致人口

當館管內ノ朝鮮人、移住シタルハ今ヲ距四十  
余年前、柳河縣、清溝(知足農村)ニ始リ、  
、未任知アリタリ以テ嚙夫トシ其後ハ一特  
移住者ノ跡影ヲ見ルニ至ラサリシモ明治ニ  
八年頃ニ到リ與ニ鮮由地アリ今縣三原浦  
附近ニ鮮人移住シ水田ヲ耕作スル者漸次  
増加スルニ至リタリ今地方ハ地勢ノ開仰  
上天然の水田ノ耕作ニ適 然ト得又附近  
ニ多量ノ荒蕪地アリテ將來ニ於ケル水田

七 在鐵嶺領事館海龍分館

事業ノ有望ナルヲ望ミ、居住スル親族及  
故舊ニ傳ヘ以テ移住ヲ促シタル結果、近年  
鮮人ノ此ノ地方始メ以東ノ興地ニ移住スル  
者甚ク多ク、今大正九年六月末ニハ此ノ人  
口一萬八千ニ及ビタリ而シテ是年移住民  
中ハ滿洲ニ於ケル水田事業ノ有望ナルヲ  
聞キ傳ヘ漫我渡來シタルモノ及ビ韓國  
時代ノ暴政ニ堪ヘズ者千ノ實、余リ持テ  
移住シタル慘狀タル良民ト曰韓領合後  
ニ於テ總督政治ニ不平ヲ抱ク者數多良  
分子等ニ區別スルコトヲ得ルニ後知テ除ク外  
ハ孰モ致メトシテ農業ノ發展ニ努メ居リ  
タルニ其後ニ於テ不逞團ノ橫暴ト存異義



地主四、五人、割合、分打、下、地、新、野、人、  
 有利、條件、八、年、以、前、賦、賦、收、入、(地、主、  
 納、付、七、元、三、角、五、分、向、包、利、得、下、五、元、  
 分、割、合、金、三、角、八、分、三、厘、三、毫、五、絲、  
 相、場、の、換、價、下、十、八、(收、入、特、別、  
 備、考、一、年、の、總、收、入、百、八、十、元、乃、至、三、百、元、  
 十、元、次、等、七、元、最、近、諸、物、價、甚、之、騰、貴、  
 店、の、付、如、何、三、節、約、節、儉、素、の、生、活、方、に、  
 家、五、六、人、の、家、族、の、有、る、七、八、最、大、限、度、  
 二、於、年、の、百、元、以、上、の、要、は、別、係、上、平、年、作、  
 二、於、年、支、那、人、の、負、債、水、利、税、兵、餉、後、者、  
 二、支、拂、の、生、活、上、の、困、窮、之、居、に、多、ク、  
 然、る、最、近、之、於、馬、賊、及、不、逞、野、人、跋、扈、  
 九 在鐵嶺領事館海龍分館  
 一、為、之、隨、所、於、被、害、者、被、ル、コ、ト、アル、ノ、  
 一、不、之、が、討、伐、為、メ、出、勤、セ、ル、故、兵、友、ノ、  
 甚、タ、シ、シ、生、活、の、安、定、シ、著、セ、ラ、レ、タル、為、  
 地、ト、モ、一、般、之、被、害、之、居、レ、リ、就、中、縣、南、部、  
 下、ニ、在、馬、元、野、人、の、移、住、投、短、日、月、ニ、シ、テ、  
 昨、年、ノ、水、害、ニ、遭、過、シ、本、春、ノ、播、種、季、節、  
 二、際、に、秋、種、ヲ、有、ル、為、多、ク、熟、セ、本、年、度、  
 一、收、獲、ノ、高、支、那、人、地、主、ノ、高、利、ノ、次、  
 一、食、料、品、ノ、備、受、ト、生、活、ノ、維、持、  
 一、倍、ノ、收、入、ニ、シ、テ、全、地、方、ハ、馬、賊、及、不、逞、野、人、  
 一、為、ノ、被、害、ニ、罹、ル、コ、ト、比、較、的、女、子、土、地、  
 一、新、々、合、地、ニ、於、テ、生、活、ノ、振、擡、ヲ、作、  
 一、若、實、ト、為、多、ク、アル、本、年、ノ、收、獲、如、何、ニ、依、



一、官吏ハ管内各出張所ニ勤務スル  
東廳巡捕ニシテ孰モ普通警察卒業後  
度成リ

口、醫師ハ朝鮮總督府ハ派遣シタ民  
會場託務ト又ハ私ニ職業スル者トシテ  
アルガ前者ハ孰モ京城醫學院同窓校  
ヲ卒業シタル三十歳以上ノ青年ニシテ  
術及人格共ニ備ハリ且ソ韓人ニ對シテ  
ソナスノミナラス支那人ノ貧困者至  
ニ對シテモ特ニ施療ヲ行ヒ居ルリ以テ孰モ  
文人間ニ相當ノ信用ヲ博シ居ルモ唯柳河  
ニ駐在スル醫師皮起泰ハ多年放縱生  
活ヲ營ミ来リタル結果日支人ニ數千ニ

在鐵嶺領事館海龍分館

ノ負債ヲ生シ出港困難ナル者ハ最近底  
蘆ナル藥品ヲ用スル高價ノ藥料ヲ請求  
スルノミナラス各債權者ニ對シテ債務ヲ履  
行セザルニテ一般ノ信用使前ニ比シテ墮  
セリ

ハ、開業醫師ハ醫學校ヲ卒業シタ  
ルモノ及醫師試驗ニ及テ居ルモノニア  
ラズシテ多年ノ經驗上醫業ヲ為スルモ成  
績不良ニシテ韓支人間ニ信用ナシ  
ニ、民會役員ニハ元不逞團ニ加入シ相當ノ  
勢力ヲ有シタルモノノ嫌疑案トシテ任命シ  
タルモノト土地ノ人民ニ於テ相當ノ影響ヲ  
有シタルモノトアルガ孰モ不逞韓人ノ

政廳ヲ忍レテ會務ニ努カスモノナリ  
ホヤ學校教師ニ孰モ其地ニ於テ其會  
又ハ代表者ニ於テ任用シテモ現在ニ教師ハ  
ハ正規ノ學校ヲ卒業シタル者又ハ斯業ニ修  
験アル者トシテ其地ニ駐在スル嘱託者  
若クハ切符者ニ於テ校長ヲ兼務シタル者指  
揮監督ノ下ニ教授スル如キハ頼母シカラズ  
モノトモ無<sup>業</sup>無<sup>業</sup>ノ關係上良教師ヲ偏聘スル  
コト不可<sup>能</sup>ナル現状ニアレバ之亦已ラ得ル次  
弊ナリ

ハ、教師ニ孰モ耶蘇教長先會ニ屬スル  
ニシテ移任ノ年月日モ相商高ク且ツ又地方  
居民人トシテ相識階級ノ教員ニ依リて僧道

一ニニ 在鐵嶺領事館海龍分館

ノ傍ラ學校ヲ經營シテ生徒ノ子弟ニ教育シ  
授與スル等公共的事業ニ貢獻スルコト大  
ナルヲ以テ適當ノ人ヲ得テ思慮ノ旨通テ之  
カセシムルニ於テ其效果ノ偉大ナル期シテ  
待ソクモモノアルモ現在ノ教師ニ我カ施政ノ  
方針ニテ解シテ之ガ善導ニ努ムルモノ絶  
無ト云フニ過言ニアラズ其他

穀物仲買商、岩屋精米業等高尚な業  
ニ従事スルモノアルモ彼等ノ除ク外ハ何レモ徴収  
タル資金ノ少ク學業ヲ為スモノニテ特記ノ  
要ナキモノ也北山城子ニ於テ學業モ精米  
所ハ二個共前年一箇月以内ノ資金  
ヲ投シテ學業ニ従事シ其成績漸次見

ア、モノ、アル、以テ、一、ハ、本、年、六、月、株、式、組  
織、ニ、表、更、ス、ト、今、時、ニ、更、ニ、資、金、ヲ、増、加、ス、ル  
ニ、意、ヲ、有、リ

一〇、鮮人ノ産業状況

在滿鮮人ノ産業状況、同、レ、テ、既、ニ、職、業、別  
ノ、項、ニ、於、テ、叙、述、シ、タ、リ、其、大、多、數、農、業  
者、ニ、シ、テ、産、業、ト、シ、テ、列、載、ス、ル、價、値、十、キ、元、ノ  
多、ク、然、レ、北、山、城、子、ニ、在、ル、依、信、精、米、所、及  
依、成、精、米、所、等、ノ、如、キ、ハ、鮮、人、ノ、結、業、ニ、シ、テ、第  
一、等、中、初、等、見、込、キ、價、値、一、元、ノ、一、ニ、シ、テ、前  
者、ハ、初、等、前、等、價、値、一、元、四、角、合、同、ニ、シ、テ、海  
一、万、元、ノ、資、金、ヲ、投、シ、創、設、シ、又、後、知、ハ、其  
翌、年、金、世、克、外、四、角、五、分、於、テ、ハ、海、五、千、元、ヲ、

一三

在鐵嶺領事館海龍分館

投、シ、テ、現、在、精、米、所、ヲ、開、設、シ、タ、ル、モ、ノ、一、万、元、  
其、故、水、田、事、業、ノ、發、展、ス、ル、一、伴、ニ、叔、敵  
ノ、今、地、ニ、身、數、ヲ、モ、ノ、多、ク、從、テ、叔、敵、精、米、所  
ハ、主、ト、シ、テ、他、人、ノ、依、賴、ニ、見、貸、揚、リ、本、業、ト  
為、シ、テ、来、リ、且、七、貸、揚、ハ、精、米、販、賣、ニ、比、シ、利  
益、大、ク、且、ソ、最、近、支、那、人、ニ、於、テ、モ、合、一、ノ  
事、業、ヲ、經、営、ス、ル、ノ、ア、ル、ニ、至、リ、且、以、テ、依、信  
精、米、所、ハ、貸、揚、ノ、外、収、獲、期、節、節、ニ、於、テ、  
產、物、ヲ、初、級、買、入、レ、之、ヲ、夏、季、開、散、ナ  
ル、時、季、ニ、於、テ、白、米、ト、シ、販、賣、ス、ル、計、画、下  
ニ、從、來、ノ、合、同、組、織、ヲ、株、式、組、織、ニ、表、更  
ス、ト、今、時、ニ、資、金、一、万、三、千、元、ニ、増、加、シ  
タ、ル、ニ、由、リ、今、故、結、業、ノ、方、針、宜、敷、リ、得、ル、更



二月以上ノ利益ヲ收メ得ルニ至ルヲ以下  
之ヲ内容ノ標準トシバトシテ

一 収入

資本金ノ減額 一〇元 (五名ノ共同出資)

動力 三十三馬力 吸入瓦斯系動力機

経費 五十九名 (一月平均ノ経費)

精米高 六十五元支店 (二月) (精米高ノ平均)

賃揚高 概七十五元 (一月賃揚高)

賃揚料 概二名及白米賃揚

賃揚料 概二名及白米賃揚 一元四角

白米賃揚 五名 一元二角

燃料及雑費 年々 千八百元

雑収入 〇元

一四 在鐵嶺領事館海龍分館

収支ノ概算

収入 一三、四七九元

支出 九、〇〇〇元

差引利益 四、四七九元

二 収成精米所

資本金ノ減額 五十九元 (五名ノ共同出資)

動力 十五馬力 吸入瓦斯系動力機

経費 二十六名 (一月平均ノ経費)

精米高 三十五元支店 (精米高ノ平均)

賃揚高 概三十五元 (一月賃揚高)

賃揚料 概二名及白米賃揚 一元四角

燃料及雑費 年々 六百元

雑収入 二百九十元

收支概算

収入 七、四一五元

支出 四、六五六

差引利益 二、七五九

二、副業

當地方の於て、鮮人の為るに、副業として、箱々、有望たるハ、養蠶、養豚、及製繩、製皮革、等、トシテ、各隊の數年前より、一教、農、民、ニ於て、試験的ニ、飼養を行ヒ、結果、其數、一才、僅カニ、數頭ニ、過キサルヲ、以テ、今日、トコロ、副業トシテ、何等見、之キ、價値、ナキ、ト、或、績、ハ、良好、トシ、之、徴シ、今後、種豚、及、豚、兒、ノ、一般、在、馬、蹄、人、ニ、配付、シ、民、會、長、始、メ、其他、

一五 在鐵嶺領事館海龍分館

ノ、責任、者、知、ニ、監理、ヒ、シ、ノ、斯、業、ヲ、奨、励、ス、ル、ニ、於、テ、ハ、優、ニ、生、活、費、ニ、或、キ、リ、補助、力、ヲ、得、テ、又、繩、及、皮革、ハ、之、ヲ、以、テ、以、リ、作り、米、穀、ヲ、包、藏、ス、ル、中、要、上、留、地、方、ニ、於、テ、最、モ、需、要、多、ク、モ、ノ、ナル、ヲ、以、テ、各、季、中、(農、閑、期)男、子、ニ、於、テ、豊、富、トシ、其、業、ヲ、以、テ、製、造、ス、ル、ニ、於、テ、ハ、亦、副業、トシ、テ、相、當、ノ、利益、ヲ、收、メ、得、ル、見、込、アル、モ、最近、ニ、於、テ、ハ、馬、賊、及、不、逞、鮮、人、ノ、跋、扞、擄、奪、ハ、甚、シ、ク、在、馬、蹄、人、ノ、生、活、ヲ、脅、威、シ、ス、ル、為、メ、彼、等、ハ、不、安、トシ、現、任、地、ニ、於、テ、生、活、ノ、根、據、ヲ、做、リ、永、住、ス、ル、ヲ、望、ム、最、近、轉、々、他、ニ、移、住、ス、ル、者、漸、次、増、加、ス、ル、傾、向、ナ、レ、バ、地、方、人、心、ノ、安、定、ナ、ル、至、

ラカレリ別業ノ發達ヲ見テト難ク之

一、自作農及半自作農ノ區別

(一) 自作農トハ高租又ハ押契約ヲ因リ定メ  
期間地上権ヲ得テ耕作スルモノナリ而シ  
テ地契約ヲ為スニ最モ初借地ノ步數ニ  
據リテ一定ノ金額ヲ地主ニ提供シ契約  
期間中在借ニ使用セシムル不使了ニ其  
及面ニ收穫ノ全額ヲ興年々々自包利益  
トシテ如キ有利トシテ方法ナリテ以テ相借  
資金金ヲ持テ渡來シ其者若クハ一定ノ地  
ニ於テ生活ノ根據ヲ做ラントスル所ナリ  
如キハ競テ地契約ヲ締結スルモノトシテ好

一六

在鐵嶺領事館海龍分館

之其數漸次増加スルニ從テ大正十一年  
五月奉天省長リ柳河縣知事ニ命ジテ今  
一年以上ノ土地租借ノ嚴禁スルノ旨  
既ニ放テ給フニシテ今ノ旨ニ  
セシメ給フ結果自作農ノ數ニ減カレ其年  
六月末調査ニ據リテ其數僅カ數ナリ  
ニナリ

大正十一年五月十五日柳河知事ノ報告ニ  
始シ

柳河縣公署 報告

照得日韓僑居中服從中國納稅之  
義務始享優待法律之保障近查該僑  
民徭々不經官府許可私自典押中

國土地房產本署送奉

者令限三個月贖回而僑民每以年限不滿  
或時期不合極口刁難不容抽贖亦有耕  
種水田不納水利及抗納其他捐稅情事皆  
屬違及條約害及主權合符取締辦法  
仰告如下

一 韓僑在中國地方不准集會結社謀為不軌  
一 不給警察或區長許可或結契約不給登  
記者不侵法律之保障

一 凡中國人民應納之捐稅僑民均照照納  
一 不准典押中國土地房產其早訂之典押  
契約均限三個月贖回其無力贖回者得  
經警察或區長證明改訂租約依法

一七

在鐵嶺領事館海龍分館

登記

一 凡種水田即應攤納水利

一 種水田有備用人水道者得向水利局  
聲請勘丈發給地丈水道地價其私  
人受授租糧者水利局不負責任

以上各條日韓僑民均須遵照其有故  
意抗違者立即驅逐出境至呈明交  
涉署通令各縣不准容留

中華民國十三年五月十五日

柳河縣知事 陳耀先

柳河水利局理事 穆長瑞

(二) 小作農十八年以上一期間以上土地租借

已耕作之土地契約之押契約如

契約金を要するものあり、故に社資本力に鮮人の  
 八五極便利ナリ、以テ管内賑管の在り  
 たる鮮人の多くハ、既に契約ニ據テ耕作  
 するモノトシテ、従来當地方ニ於テ實行レ  
 来ル種別ノ契約ノ在リ、如レ  
 一、租子年租契約ニ等シキモノ  
 二、青子分益作ニ等シキモノ  
 (一) 租子年租の概ネ五、六回年ノ期間ニ  
 テ契約書ヲ作成シ、租ナラハ一、二地ニ付  
 一石(石ハ支那林丈) 現金十、二十圓  
 農人元リ地主ニ納メ、地租及地方費  
 等ハ總テ地主ノ負擔ニ做ルニ等シ  
 作人側ニ有利ナルノミナラズ、實金ハ  
 一、八  
 在鐵嶺領事館海龍分館  
 是レキ鮮人ニ於テ、容易ニ契約シ得  
 ル便法アリ、以テ一般ニ其契約ニ基キ  
 耕作シ来リ、且モノチ、其後鮮人  
 農夫ノ増加スルニ伴ヒ、水田事業ノ發  
 展ヲ見ル、發達スル支那人等ハ、作  
 人ヲ求ルニ従前ノ如ク困難ノ感セ、  
 以テ察知シ、大正九年以降、右契約  
 年限リ三年ニ短縮スルト、今特ニ作  
 料ノ陪額ニ引上、地租其他ノ諸費  
 ハ總テ作人ノ負擔セシム、以テ農更  
 レタリ、其契約ハ分益法ニ比シ、尚  
 更ニ作人ニ有利ノ點多クアリ、以テ鮮  
 人側ニ於テ、何等不平等唱フル者ナシ

地主、處置ニ有後ノ居リ、先處大正  
十八年五月十五日付柳河縣知事ノ  
却告ニ對シ、未詳人ハ一年以上土地  
ノ租借有リト雖、然レモ之ヲ不從、未實  
約セシ分リモ、係テ新規定ニ更改、是レ  
又ナラサルコト、ナリ、然レモ、地主ハ、作  
人ノ意思如何ノ同、先悉ク新規定  
ニ據テ契約ノ更改ニ尚、甚クシキ地  
主ニ至リテ、從來ノ習慣、其ノ無視、シテ  
荒蕪地ニ對シテモ、其年ノ收穫ノ  
多寡、之應、シカ作料ノ徵收、之者アリ  
テ、柳河縣知事ノ却告ハ、甚クシク  
朝鮮人ノ發展ノ阻碍、ニ成リ、出後、

一九

在鐵嶺領事館海龍分館

困難ナラシメテ、ナリト云フモ、過、去、ニ、テ、ハ、

(2) 青子ノ契約ハ、一年ノ定期トシ、其後ハ、雙  
方ノ意思表示、不、同、ニ、テ、意、ニ、解、約、シ、又、ハ、  
租借ノ継続、ノ得、ル、モ、之、テ、從來ノ慣習、ニ  
依、ル、ハ、一年ノ五、六、年、迄、ノ、最、大、限、度、ト  
ナシ、分、益、共、合、モ、三、五、七、分、ノ、四、五、六、分、  
ノ、モ、ノ、多、ク、(三分七、八、地、主、三、分、ニ、シ、テ、作  
人、七、分、ヲ、云、フ、以、下、之、ニ、依、ル、) 而、シ、テ、地、主、ハ、破  
産、力、ナ、カ、作、人、ニ、對、シ、テ、最、モ、底、利、ノ、以、  
テ、生活、費、始、メ、農、具、代、金、ヲ、貸、與、ス、  
ル、事、ハ、同、情、ノ、以、テ、處、置、シ、果、シ、テ、最、  
近、ニ、至、リ、テ、前、題、各、種、ノ、事、務、上、地、主、側  
ノ、殺、傷、手、段、ト、ナ、リ、租、借、年、限、ノ、最、

少限度、一年に縮減し又其合、強ト  
 五分五分、五ヶ(梯)ハ四、五分トコ  
 ルモ極、キ方レ)尚、貧困、少作人ニ對シ  
 生計費トシテ、粟其他、雜穀ヲ貸付  
 ケ、年六割、ヨリ甚、タシキハ十割ノ高利  
 ヲ貸ル、少作人一年ノ利益ハ、寡ク、地  
 主ニ、擧奪セラル、悲慘ノ状態、オレバ、野  
 人ノ多ク、一、地ニ於テ、生活ノ根據、作  
 得ス、轉々他ニ移、住ル、事情、已リ得  
 サル、凶災、ナリ

一三、耕地ノ面積及收穫高

(一)耕地ノ面積

耕地ノ其合、新、水田、ニテ、高祖、ニ據ル、モ、一  
 二〇 在鐵嶺領事館海龍分館

モ、オ、野人ノ所有地、又、押契約、ハ、依ル、モ、ノ  
 又、少作契約、ニ據ル、モ、ノ、計、上、シ、テ、送、来  
 少作人ノ、親モ、支、那、人ノ、所有、土地、ヲ、少作、人  
 人、ニ、送、来、シ、テ、少作、人、ノ、親、人、ア、ル、リ、見、ル、ハ  
 至、ル、而、シ、テ、當、館、管、内、ニ、於、テ、野人ノ、耕作  
 水田ノ、總、面積、ハ、六、万、四、千、六、百、畝、中、(支  
 那、人)野人ノ、所有、ノ、屬、ス、ル、モ、ノ、千、三、百、畝、支  
 那、人、及、押、契約、ニ、據ル、モ、ノ、四、千、七、百、畝、少作  
 人、契約、ニ、見、ル、モ、ノ、五、万、九、千、二、百、畝、支、那、人、ニ、テ、之、リ、大  
 正、十、二、年、六、月、末、ノ、調、査、ニ、比、較、ス、ル、ト、キ、ハ、押  
 契約、ニ、於、テ、四、千、九、百、七、十、七、畝、ノ、減、少、シ、来、レ、ル、  
 モ、少作、契約、ニ、於、テ、三、千、六、百、二、十、二、畝、ノ、増、加

見ルニ至リ多ク之ノ増減、原因ハ主トシテ支那官憲ニ於テ一年以上ノ土地契約ヲ禁止シタルト分益共合リ引上ケルニ依ルコトハ勿論ナリト雖モ最近ニ於テハ馬賊及不逞群人ノ跋扈モ亦甚クシテ野人ノ出沒リ得成レシ一地方ニ於テ生熟ノ根柢ヲ作ル能ハザルニ至リ、輕々他ニ移住スルノ已ララ得ヤト云至ラレドタルトハ極ルニ一、如シ

(a) 收穫高

當地方水田ノ收穫高ハ一考地ニ存普通田畝ノ支取乃至十二支取ノ間ニアルカ、天候ノ關係、地味ノ肥瘦、水利ノ便利否、耕作

在鐵嶺領事館海龍分館

方ノ精粗等ニ據テ大ニ收穫高ヲ増減スルコトアリ、最近數年同ノ平均ニ依リテ支那一考地ニ存平均ノ收穫アリタルモ昨十一年ノ水害ノ有メ或レ一畝ノ地方リ除ク外、強強ト下收穫皆低ナリシモ當地平年ノ收穫リ如ク、此地ノ收穫ニ比較セバ耕作ノ高粗ナル割合ニ收穫高多ク、又感ナキニモアラサルモ當地產ノ粗ハ結實不良ノ有メ一度更リ粗摺器ノ多ク精米トナスカ、於テ其割合極メテ低ク普通田畝ノ平均ニ比シテ底下ニ下珍トカサレバ白米トシテノ計算ハ、此地ノ支レニ比シ著シク差ヲ生ラシ然



一四、土地商租、收税  
 土地商租ノ状況ニ関シテ、附一ニ項、自作農ノ  
 租ニ於テ、物産ノ急激ニ大正十二年五月、土商租  
 一ノ支那官定、一年以上ノ土地契約  
 一ノ支那官定、一年以上ノ土地契約  
 一ノ支那官定、一年以上ノ土地契約

在鐵嶺領事館海龍分館  
 一ノ支那官定、一年以上ノ土地契約

所在地	契約者ノ氏名	種別	期限	金額
海龍	南滿鐵道	高租	十年	四百八十元
海龍	南滿鐵道	高租	十年	四百八十元
海龍	南滿鐵道	高租	十年	四百八十元

海龍 押契 四三 〇

柳河郷	新	三、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
柳河郷	新	四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

永代祖傳

永代祖傳(永代祖傳)今、距、十、数、年、前

柳河郷大沙洲、居、住、者、中、皆、永、代、祖、傳

名、が、故、化、の、系、統、を、継、承、し、て、入、居、し、て、大、正、十、一、年、

子(合夥)居、住、者、外、に、支、那、人、

名、義、の、以、て、購、得、し、て、其、所、在、地、

者、及、故、祖、の、地、(附、属、地、を、表、す、也)

新、在、地、所、有、者、の、名、義、に、

柳河郷、中、橋、村、大、沙、洲、新、在、地、所、有、者、の、名、義、に、

大、正、十、一、年、四、月、支、那、側、に、

新

在鐵嶺領事館海龍分館

一五、水利関係

高地方(海龍、柳河、縣南、三、縣、等)、地、帯、に、

諸、河、流、は、長、短、不、一、な、り、地、帯、に、

二、三、の、河、流、は、一、般、に、緩、慢、な、波、状、

形、を、呈、し、隨、所、に、平、坦、な、溪、谷、を、

形、成、し、農、業、の、水、利、に、便、し、く、以、て、

一、般、に、農、業、の、水、利、に、便、し、く、以、て、

十、分、柳、河、郷、東、部、に、於、て、柳、河、水、を、

灌、漑、に、用、ひ、て、其、灌、漑、に、用、ひ、て、

灌、漑、に、用、ひ、て、其、灌、漑、に、用、ひ、て、

於、て、水、利、税、制、度、を、新、設、し、高、地、方、(海龍)

柳河)ニ合同ヲ設置シ且以末水利施  
 設ニ全郡合同費用ヲ以テ充テリ故トト  
 共ニ既成水田一畝ニ對シテ洋八角及  
 新開水田一畝ニ對シテ毛本南水利稅  
 ヲ徵收スリテ今水内事業ニ関スル  
 施設ハ合同ニ於テ積極的設備ヲ施シ小  
 作人ノ負擔ヲ軽減セシムト今時ニ新業  
 條達ニ貢獻スル大志モノルヤト  
 一般ニ期待改メ居リ今當ニ出資料トモ  
 合同ニ在勤官吏ノ多ク支那人ノ  
 特有性ヲ失テ現在、既耕地ニ對シ  
 實際ノ畝數ヨリ大ニ税金ヲ賦課シ  
 又、狡猾ナル地主ト結託シテ新ニ畝數  
 二四 在鐵嶺領事館海龍分館  
 ヲ増加スル等最近作物ノ對水利局ノ  
 忌クヤキ事件頻繁ニ存今收合同  
 ニ於テ根本ヲ改善シ  
 其規定ニ基キ使用ヲ確實ニ遂行  
 スニアラサレバ將來水田事業條達  
 期待スルト不可也且、何人ニ務志  
 ニ難カラズ今柳河縣ニ於テ人ノ權  
 限設備ノ相違全ク當所ヲ變テレバ  
 尤ノ如シ  
 柳河縣 牙一區 二區溝、大河溝  
 等ニ在 大河溝、灣溝(知是農林)  
 第三區 柳子溝  
 一六 支那官憲、徵收之税金、豫別)

在滿日鮮人ニ對シ各種ノ税金ヲ賦課シ給ハ  
 サレトハ愚昧ナル支那地方官ニ於テ七十ノ餘  
 解ニ居ル所ナカ地方ノ公共團體ハ連年ノ  
 馬賊被害ニ對シ防備其他水災豫防等ニ  
 多額ノ地方費ヲ支出シ自國民ノミニテハ力  
 負担ニ堪ケザリテ大正十一年度より在留日  
 鮮人ニ對シ左記税目ヲ定メ強ク之ヲ奉行  
 爲ニ早ク之徴収シテアリ。

大別/各金	兵隊	税	歩
海龍縣	地租	上等	中等
輝南縣	同上	同上	同上
柳河縣	同上	同上	同上
備齊	兵隊	土地耕作	同上

一、家畜税、柳河縣ニ於テ市街地居住者ノ  
 之ニ對シ徵收ス

以上税目中之家畜税ニ以テ之ニ於テ負担スル方  
 系則トモニ多額ニ於テ負担免場合ハ實家  
 料ノ税金トシテ値上ケルニ任然尙借家者負担  
 トモニナリ

一七、朝鮮人會、收税及支事業

従来留館管内ハ朝鮮人ノ自治的機關ト  
 シテ統(一)自ニテ多額ノ保護費上不便者  
 ヲサレテ大正十二年四月迄前ノ保民會及農  
 業組合等ノ諸團體ヲ統合シテ海龍朝鮮  
 人會ニ改組シ也。此ノ海龍ニ里中ト同休  
 支都ヲ柳河、北山城子、南山城子ニ源

浦、輝南、極、明、等、支、部、の、放、置、シ、支、部、  
 中、教、指、揮、に、依、り、管、理、に、任、務、を、負、担、シ、  
 ト、其、の、在、籍、人、の、指、導、若、者、派、の、努、力、に、支、  
 新、長、以、下、教、師、付、給、事、務、の、管、理、に、  
 部、の、在、籍、人、の、於、テ、管、理、に、任、務、を、  
 規、定、セ、ラ、レ、ル、に、在、籍、人、の、連、年、為、賦、  
 及、り、置、籍、人、の、免、職、考、査、に、依、り、  
 活、の、根、底、を、失、フ、危、ク、折、損、更、ニ、昨、年、  
 水、害、に、遭、過、シ、タ、リ、以、テ、急、會、費、を、納、  
 入、ル、に、努、メ、テ、状、態、を、漸、ク、見、直、メ、各、地、の、支、  
 部、長、の、各、地、に、書、記、シ、テ、備、忘、ル、に、向、テ、書、記、シ、  
 之、系、務、に、任、務、を、如、ク、始、メ、レ、バ、昨、年、度、の、  
 一、本、年、の、成、績、を、( ) 以、テ、校、長、に、送、付、ス、  
 在、鐵、嶺、領、事、館、海、龍、分、館、  
 何、事、見、ル、キ、モ、一、ノ、ナ、リ、然、モ、本、年、の、成、績、を、  
 籍、存、リ、各、地、の、支、部、に、對、シ、桐、留、補、助、金、  
 支、給、シ、テ、是、レ、は、事、務、の、成、績、に、大、ニ、寄、  
 由、ニ、成、リ、ア、リ、カ、如、ク、豫、算、に、見、テ、レ、バ、  
 由、ニ、成、リ、各、地、の、各、地、の、維、持、費、に、困、難、に、  
 此、際、ノ、下、十、レ、ハ、該、補、助、金、ハ、各、地、の、維、持、費、  
 二、充、用、ス、ト、ナ、リ、以、テ、支、部、の、回、答、に、復、シ、  
 于、本、年、の、成、績、に、依、り、發、揮、ス、ト、無、ク、  
 尚、三、浦、支、部、の、不、逞、籍、人、の、脅、威、に、依、り、  
 使、命、シ、テ、完、了、シ、得、ル、迄、一、昨、年、中、に、於、テ、  
 散、セ、レ、ル、支、部、に、對、シ、本、年、度、補、助、  
 金、額、を、算、出、シ、レ、バ、左、ノ、如、シ、  
 場、所、會、名、補、助、金、額

南山城子	朝鮮人會友部	小洋四百元
北山城子	公	四百五十元
柳河	公	六百元
輝南	公	六百元
榛子	公	六百元
計	五ヶ所	二千六百五十元

一八、鮮人、利用元金融機關の時誤  
 従来管水の日鮮人、利用元金融機關の  
 設置キツル本年三月在日鮮人有志  
 の發起により株式会社東山興發公司  
 資本金五万円西署(林込浦)に設立シテ  
 此件昨年、水害に依り農業資金金不足  
 一色鮮人等、各地朝鮮人會又警察  
 官夫生原折リ且シテ資金、借入レリ申込ミ  
 タルモ該會社の、官利の目的ト見為テ社資  
 カル朝鮮人、何人か保証ト為リ同社一  
 切貸付リ為シ知リサレ事情アリ以テ是等  
 ノ申込ミシテ金款拒絶シテ結果貧困ナル  
 鮮農業界、今秋收穫迄、生活費ニ困リ  
 其生活上げ難シト穀物ト農業資金  
 トハ支那人、地主より借入レ又其他、物品ハ  
 支那商店より賒買スレ不得已ニ至リ多  
 少、古モノ、新モノ、桐油信用已保証人数  
 名り要シ且、收穫期ニ至リハ收穫ノ存  
 在ニ係ラズ年木割乃至十割ノ高利  
 ノ附シ返流セリト云フサレ思惟ハ堪馬

二七  
 在鐵嶺領事館海龍分館

ニアリ以テ其等ニ對シテ救済施設ニ努ム所  
 核實ノ救済以上ニ必要リ或シ居ルニ極  
 會社ニ前送リ理由ニ依リ一切貸付ヲ  
 爲サズ悉ク今般苦業方針ニ對シテ  
 善シテ貸付ケリ爲ストルモ現在ノ救済  
 也ハ農家ノ苦業會社ノ措置ニ依リ  
 任ラズキモノニアラサシニ存東カニ帝國政  
 府ニ於テ在焉者中最モ貧困ナル農  
 家(即チ租種ヲモテ所存セザル者)六  
 百餘戸ニ對シテ農業資金トシテ明春播  
 植期節近ニ一戸ニ付三十圓乃至五十圓  
 ノ範圍ニ於テ低利資金ヲ貸付ルルハ  
 刻下ノ必要施設歟見ベリ(其額ハ百五  
 十圓ニ至ル見込)而シテ之カ貸付及  
 回收ノ事務ハ各地ノ朝鮮人會長ヲ以テ  
 管理セシムルニ於テハ故障ナク遂行シ得  
 ヲキモノト見料ス

二八

在鐵嶺領事館海龍分館

一九、鮮人教育機關ノ收説

管中ニ在ルニ學齡児童數計り甲種ハ合計  
 三十二、五五九人、乙種ハ一、七〇〇人、丙種ハ一、  
 七〇〇人、計四、九五九人、又ハ不逞鮮人、兇暴  
 ニ依リ生活上ノ根底ヲ失ハ子孫ニ對シテ教  
 育ヲ施ス資力ナキ者多ク爲メ現在僅カニ  
 六百七十八名ノ就學者ヲ見ルニ過キズ而シ  
 テ極古首餘數ノ生徒ハ悉ク十五校ニ私塾

收容セリ居ルモ若クモ校トモ前未直  
結果困難ヲ来レ居ル結果也ノ設備及教  
授ノ方極ニ修テモ定備シ免モノ極ナリナ  
ク然モ右學校中稱セザル學校ノ形保持  
ニ比較的教授ノ方法モ定備シ居ルモノ  
三浦浦ノ東明學校、柳河ノ慎昌學校、孫子崎  
ノ新學校、南山城子ノ義興學校、北山  
城子ノ文化學校、大津灘ノ日新學校、向陽  
館ノ洋州學校等ニ并他ノ志々々曰キ小座  
式ノ學校ニ過キザリ以テ右記載ノ略シ  
附録四郷表ニ計上下

各學校ノ經歷及現在ノ校況

(1) 柳河縣東明學校 (三浦浦)

一九

在鐵嶺領事館海龍分館

本校ハ大正三年創設シテ(當時ニ三浦浦附近  
ニ居住スル野人組織シテ組織會ノ名ヲシテ)  
ソノ好オテ三浦浦ニ校立シ免モノ維持困難ナ  
ルヲメ今年野蘇教會ノ至管者方基  
典ニ議以テ思養學校ト改稱シテ引  
續キ野蘇信徒ノ子弟始メ一般子弟  
ノ教育ニ從事シ居ルモノ也ノルガ大正十  
年韓政權ノ終末セリ野蘇教學校  
ト名稱シ更ニ東明學校ト改稱シテ  
今日ニ至ルニ臨シ今校ニ現在生徒百十  
ニ名アリテ學費、書費、兩科ニ區別シ教  
師七名ニテ之ヲ擔任シ本年并更ニ公  
校中ニ中學校部ヲ設置シ現在十六名生徒



ヲ相尋リ

(四) 柳河郡 柳河 恒温 学校

本校は大正十一年六月現海龍朝野人  
會長李膺斗發起ニテ、柳河郡内  
ニ設立シタルニテ、現在生徒教員五十名、  
有シ、曩ニ資格ヲ有シ、使醫師、必要  
女史ニ於テ教育ヲ擔任シ、其次ハ斯等  
ニ相當経験ヲ有シ、陸教師外、一、  
(何モ且親口文ニ精通ス)ハ教育ヲ擔任  
シ、熱心ニ教授ヲ為シ、居ル結果生徒ノ  
成績良好ニシテ、朝野各地ノ普通學  
校ニ比シテ大差ナリ。

(五) 柳河郡 孫子 明新 学校

三〇

在鐵嶺領事館海龍分館

本校は大正十年十月外有志ノ發起  
ニ依リ、柳河郡孫子明ニ設立シタル、  
本校余ハ不完全ニテ、現在生徒四十  
名、有シ、校長以下三名、教師ア、長  
長ハ朝野總督府派遺ノ醫師金  
翔坤ハ兼任ス、熱心教授ニ努力ス、  
結果、藝術科ト成績優良ニシテ、  
朝野各地ノ普通學校ニ比シテ大ニ進  
色ナリ。

(六) 海龍郡 北山城子 文化 学校

本校は大正十一年十月、李珍河外、如  
ノ發起ニ依リ、海龍郡北山城子ニ設立  
シ、校舎ハ不完全ニテ、現在三十名、生

徒の有し校長以下三名教師(校長三朝  
鮮總督村海達醫師韓相載菊任下)ノ  
手執石ノ教授ヲ為ス結果也力成績良  
ナリ

(十)海龍郡大沙灘口新學校

本校、元耶蘇教信者ノ子弟ニ對シ同  
等ナル教育ヲ施ス目的ヲ以テ大正七年校  
師金益珠ノ海龍郡大沙灘ニ設置シ  
タルモノトシテ中途中、柳日思志ノ鼓吹  
ニ因リ或多ノ不良分子ヲ生シ且高、大  
正九年帝國軍隊ノ討伐ニ因リ一時閉鎖  
シタル金益珠ノ故順恢復興ニ現在  
生徒五十名ノ有リ校長以下二名ノ教師アリ

三 一 在鐵嶺領事館海龍分館

テ此等ノ教育ヲ擴充シ教授ノ方法及  
設備トモ相是備シ居リ

(八)柳河郡馬鹿溝辰正學校

本校、元牧師韓致禧力耶蘇教信者  
子弟、為メ設置シタルモノトシテ在り為増加  
スルニ伴ヒ漸次生徒ノ數ニ増ス至リ現在  
ニ於テハ六年餘名ノ生徒アリテ校長以下二名  
ノ教師也、教授ヲ擔任シ結果相宜ナ  
ナリ

(七)柳河郡向陽鎮洋明學校

本校、耶蘇教信者、發起ニ伴リ大正十  
二年七月合地ニ設置シ現在四十名生徒  
ヲ有シ校長以下二名ノ教師アリ教授

ノ任ニ當リ居ルモ本校ニ同教日減ク其上  
匪賊ノ未製類第ニ其為メ児童休校  
ニ元ノ多ク後ニ成績良好ナリ

(子) 柳河郡南山成子義興學校

本校ニ他居後野人有力者李潤ハ校長  
起テ大正十一年四月南山城子街ニ設置シ  
現在生徒三十四名リ教師ニ新業ハ  
相留経験アリ且フ口語ニ巧ナル教師  
熱心ニ教授ニ當リ居ルニ休學科ノ成績  
ニ付テ他校ト遜色ナシ

學校維持ノ方法

(一) 東明學校

本校ノ經費(教師七名)俸給ハ野人ノ校長

三 二 在鐵嶺領事館海龍分館

學ホ如月七洋二十五元支那人々二十五元家賃  
諸雜費ヨ含リ一年約三千五百元ノ要スル  
モ管下ニ五六名ノ在野野人アリ其  
生徒費カ元為メ之等ノ者アリ學校維持  
費トシテ一ノ百四年四百元外ニ生徒  
アリ尋常科月三兩、高等科月五兩、中學  
科月一元ノ授業料ヲ徴收スルモ其ノ收入  
ノ之ニテ維持ナシトシテ毎年朝鮮總督  
府ヨリ多額ノ補助金ヲ支給セリ且  
三府(昨年度)補助金ハ三千八百円也(總督  
頭ニ問譯ナリ)

(二) 恒昌學校

本校經費(教師二名)俸給(陸軍師長ノ家

貸諸費者(合)年一十五元、要元  
昨年度今枚ニ對シ朝鮮總督府支  
給シテ補助金ニ僅ニ二百圓ニ過キテ而シテ  
其不足ニ管內ニ在在朝鮮人月一十元  
十洋三元先ニ徴収シテ今地方運  
年ノ為賊被害及ヒ氷昨年ノ水災依  
一層出港上ニ困難ト来レ居ル為ニ學校  
費ニ納付スル者極ク多クナリ、  
結果、依然困難ナルモノ、也

(3) 財新學校

今枚、經費(教師ニ如ク、俸給(月給三十元)家  
賃雜費者(合)一年一十三元、要元  
今枚ニ對シテ、昨年度朝鮮總督府

三 系

在鐵嶺領事館海龍分館

補助金ノ支給ナクシテ、留館ニ補助費  
一支給シテ、出納ニト同轉シ、金五百圓ノ前  
借ニ不足シ在在朝鮮人ニ於テ、買換ニ来リ  
見モ今地、地方、回斷ナリ、再賊及ビ不逞  
鮮人ニ飛威セシ、豫期ノ出港ノ事、保サ  
ル所、早ク漸次、在在朝鮮人、救救ナク、至  
ル所、于現、在、始、テ、大、額、ノ、補、助、金、ニ、對、シ、特  
末、他、ト、合、ニ、對、シ、校、長、ニ、良、成績、呈  
ル、ト、下、知、ル、困難、ナリ、也

(4) 文化學校

今枚、經費(教師ニ如ク、俸給(月給三十元)家  
賃雜費者(合)一年一十三元、要元  
今枚ニ對シテ、昨年度朝鮮總督府

セラル、補助金以外ハ全部在露邦人ニ  
於テ負擔スルモ他地方ノ如ク經費ノ徴収ニ  
困難リ来サル高ニ終ニ満足ナリ

(5) 日新學校

本校ノ經費ハ一年約セ洋一千元(元)教師  
ハ多ク、校中ノ薪俸ニ高ニ特ニ費用ノ教師  
ノ置ルルノ要スルモノトモ補助金ノ支給ナ  
キ高ニ管中ニ在ルモ耶穌徒者ハ全部  
リ負擔スルニ終ニ窮困難ナリ

(6) 義正學校

本校ノ經費ハ一年約セ洋一千元(元)要ス  
ル所ニ多ク、教師ノ兼任ニ存用教師  
一名ノ置ルルニナリモ補助金ナキ故ニ管中  
ニ在ルモ耶穌徒者ハ全部負擔スルニ終ニ窮困難ナリ

三 四 在鐵嶺領事館海龍分館

在露邦耶穌教信者ニ於テ負擔スルニ終ニ窮困難ナリ

(7) 洋明學校

本校ノ經費ハ一年約セ洋一千元(元)要ス  
ル所ニ多ク、管中ニ在ルモ耶穌徒者ハ全部  
負擔スルニ終ニ窮困難ナリ

(8) 義興學校

本校ノ經費ハ一年約セ洋一千元(元)要ス  
ル所ニ多ク、管中ニ在ルモ耶穌徒者ハ全部  
負擔スルニ終ニ窮困難ナリ

此野人の熟を証實力古小作農ニ生  
 活困難志所板昨年来不逞野人、  
 掠夺ト至職ノ被害ト至リ一屬生活上  
 二困難ヲ来レ之カ為ニ學校維持費ノ如ク  
 毛納付元者少キナリ李獨ハ、石傳己  
 自巳、私財六百餘元ヲ投テ今日迄維  
 持シ来リタルニ本年度公校ニ對シテ洋  
 五百元ノ補助金ヲ支給セラレタリ、  
 全地方ニ本年ノ年懸ニテ豫期ノ收穫  
 ノ得ト下能年ノ狀懸ナレバ學校給養ハ  
 依然困難ナルモノ、如シ  
 右學校中昨年ヨリ本年度ニ於テ補助金  
 ヲ支給セラレ且校及及金額ノ換年々レハ  
 左ノ如シ  
 大正十一年度  
 在鐵嶺領事館海龍分館

嶧陽學校	新在 地	補助 金 額
嶧陽學校	柳河 街	金 二 百 圓
明新學校	柳河 街	金 五 百 圓 (前會)
文化學校	北山 城子	金 四 百 圓
東明學校	柳河 街	金 四 千 圓
大正十三年度		
嶧陽學校	柳河 街	金 四 百 元
明新學校	柳河 街	金 三 百 元
文化學校	北山 城子	金 四 百 元
義興學校	南山 城子	金 五 百 元
嶧南學校	嶧南 街	金 四 百 元

管内に於ては、鮮人の教育機関、就學児童  
 數取及之り成績並に、該學方協等ハ  
 前額列陳、自ら漸次良好進歩、  
 趨勢、是レ居ル存、如際教育機関ハ  
 對シ南滿ノ補助金ヲ支給スルハ、民心  
 ノ落發及思想ノ善導上、最モ必要  
 ナシ、施設モ尤短来、且等ニ對スル補助金  
 額ハ極メテ少ク、其上又カ配付ノ法ニ付  
 テ、實情ハ割ハズ、東明學校ノ如ク、該學  
 園難ナラザルモ、ニ多額ノ補助金ヲ支給  
 シ他、然學困難ナル學校ニ對シ僅少ノ  
 補助金ヲ賜ハ、若クハ全然支給セザル  
 モ、アリテ一般ノ誤解ヲ招キ却テ該學校  
 三 在鐵嶺領事館海龍分館  
 一、條達リ、阻礙ニ成リ、尤モ、四月三  
 日、滿ハ不逞野人ノ暴徒、在額、無ニシ  
 ナ思志、惡化シ、今地ノ中心トシテ、他ニ波  
 及シ来ル存、全校ガ對シ、金カク傾注シテ  
 思志ノ惡化ヲ防止セリトシ、然ハ、該學園  
 高ニ良策モ言リ候、然モ、轉教  
 務(東明學校長)ガ心底、早ク、一方、對  
 シ理解シテ、思志、惡化ノ防止ニ善處  
 シ、トヤ、只、該學校上、ハ多ク、改革ヲ起  
 シ、得ルモ、一般ノ思志、上、リ、觀察、モ、トキ  
 ハ、何等、効果、見、志、キ、モ、ナシ、然、他、ノ  
 學校、ノ、於、テ、孰、モ、相、當、ノ、成績、ヲ、得、テ、居  
 ル、付、今、後、補助、金、ノ、増、額、セ、ラ、ル、場、合

ハ學校ノ成績及経歴ノ難ヲ擧テ之ヲ公  
平ニ配給シ入學ノ思想ヲ宣傳スルニ力  
ヲ向學心ノ旺盛トシテ縣人等ノ競争  
ノ差ヲ入學セシムト同時ニ兒童ノ教  
育ニ對テ帝國ノ恩惠ニ感謝シ自然  
徒來ノ排日思想ヲ一變シ穩健ナル向  
上發達ヲ圖ルニ至ルヲ教育機關擴充  
ハ當地方ニ於テ文化政策ノ第一要事  
トシテト思料ス

二〇縣人ノ宗教收斂

管内ニ在ルル縣人ノ宗教ハ耶穌教以外  
ニ是レキモノナク佛ヲテ之カ由來ヲ探究  
スルニ於テ長光流ニ屬シ徒前ハ縣

三七

在鐵嶺領事館海龍分館

本地ノ同流ヲ殊ニ當地方ニ牧師ヲ派遣  
シテ之カ傳道ヲ司ラシメ居ルモノナルカ  
以テ大正二年三月牧師轉教後ヲ柳河  
縣ニ配置シ之ニ當テ扶民團(柳河縣  
團)ハ耶穌教ノカニ據テ廣ク排日思想  
ヲ普及セシト企圖シ居ルモノ際ナレバ轉牧  
師ニ對シ巨額ノ補助ヲ與ヘテ柳河縣  
内ニ教會堂ヲ如ク布教折五個所ヲ設  
置セシメ之ヲ再々轉牧師ハ全團ノ  
教令ヲ裁シテ宗教ヲ傳道スル儀  
徒ノ子弟ニ對シ簡易ナル教育ヲ授與  
シ居ルモノカ其收徒ノ増加スルニ伴ヒ大  
正七年更ニ縣内地ヲ牧師全委殊ク



呼聲也韓之之ト俄ヲシテ斯教、發達乃ト  
抑自思志、鼓吹ニ努力シテ結果抑阿  
物也、在爾ニ韓人等ハ孰モ濃厚ニ抑自  
思想、抱持者トナリ大正八年五月韓地  
ニ於テ朝鮮獨去萬歲、聲ヲ揚グルヲ韓  
ハ扶民團長李活等ト共謀シテ三溍神ハ  
軍政器下獨立陰謀團體ヲ組織シテ數  
ノ部下ヲ使放シテ良民ヲ殺害シ又ニ在滿  
同胞アリ歎カラズ金出シ強徴シ来リ  
モ大正九年我軍隊ノ出陣討伐後、前  
ハ悔ヒテ尚敵ニ敵愾ヲ願ヒテ爾來表面  
ニハ政治關係ヲ離シテ宗教家ノ立場ヲ嚴  
守シ獨立團體五ニ帝國官憲ニ對シテ

三・八

在鐵嶺領事館海龍分館

ハ不敵不離ニ態度ヲ以テ傳道ニ從事ス  
ル席ヲ徒索、學教ノ擴張シテ予等ノ教  
育ニ努力シ居ルニ今後之業カ真意  
アリ帝國政府ノ去義方策ヲ理解シ  
テ思志ノ養育ニ努力スルニ於テ其効果  
偉大ナル期シテ後ヲ又テ之ノ不備地  
方ニ如キ獨去團體ノ勢力比較的大ニ其地ニ  
在リテ、韓ニ徒索、關係上俄ニ態度ヲ  
一変スニト能ハズモ今及民心ノ安定  
スル候テ之等ヲ指導スルニ於テ、相商ノ  
成績ヲ舉ゲ得ヤキト思料ス尚此  
ニ於テ教會堂、牧師及信徒ノ數ヲ舉  
ケレバ左ノ如シ

地名	牧師氏名	信徒数
海防 北山城子	金登珠	二八
大義尚	金	八二
柳河 大義尚	金	一五〇
柳河 野橋尚	金	三五
向陽鎮	金	一九〇
大花斜	韓致禧	二二〇
青崧子	金	四八
馬鹿溝	金	八七
三道溝	金	八一
孤山子	金	四〇
溝溝	鄭道一	一六八
会	韓致禧	三四
計	三九	一七三

在鐵嶺領事館海龍分館

二一、野人、衛生狀況及醫療概況  
管内に在る野人、多し、低級な労働者たり、その衛生、衛生思想、及して従来、麻痺者あり、附近に居住する貧乏な野人、醫術を授け、その完全な治療を施し、又會同者に至り、漢薬を購入せし意、如クナリ、悲慘な状況にあり、之れを朝野總署に、天正十一年度より比較的野人、多し、地方即ち柳河、極子、北山城子、三ヶ所、(三浦浦、柳河、極子、北山城子、三ヶ所)ニ京城醫術出身青年醫師三名、派遣し、聚り野人の醫療に從事せしむる處、今醫師等現

任地ニ於テ野夫人ノ會同者ニ對シテ施療ヲ為  
ス傍ラ本報御覽地ニ居候之同胞ニ對シテモ  
時々巡回施療ヲ為シ果シテ結果最近ニ於テ  
ハ衛生状態ハ漸次良好ナリト伴ヒ野夫人何レ  
モ帝國政府ノ慈善的施療ニ感謝シ居トモ  
本報御覽地ノ如上ノ理由ニ依リ曠世ノ偉大  
報分リ施療費ニ投シ吾由醫業ノ收入トシテ  
ハ一月十坪ノ元乃至百元以下トシテ以テ救急  
治養ヲ行ハサカ分會醫師等ハ能ク経済上ノ苦  
痛ヲ忍ビ醫師充ノ本合リ余レ尙ホ民會學  
校等ノ修學ニモ相當ノ援助ヲ與フニ等朝鮮  
人ノ發達上ニ貢獻スル所期カラケルヲ以テ日  
鮮支人同ノ信用最モ厚シ

在鐵嶺領事館海龍分館

因ニ公醫師等ノ大正十二年五月ヨリ本年五月  
末ニ至ル取扱遺忘致及病名ヲ集メテレハ附  
録五報表ノ如シ(附録五報表)

二二、言論機關及之ヲ取締ル状況  
管中發行ノ言論機關トシテハ居候中野人ノ  
組織ニ伴ヒ東北諸報會及海龍朝鮮  
人會等ノ兩月報アリテ前者ハ日野人  
ノ諸報及融和ノ圖ニ目的ヲ以テ毎月七十報  
ヲ發シテ各會員ニ頒布シ又後者ハ時々  
會員ノ意見ヲ彙集シ相互ニ連絡シ保ツ  
者ノ毎月七十報ヲ發シテ亦亦會員ニ頒  
布シテ而シテ管外發シテ一トシテ、毎日(中  
報、東亞日報、朝鮮日報)ニ三報ニシテ外ニ

上海做政府、發行ニ係ル独立新聞及揮  
同、通化、興京方面ニ根據リ有之独立  
國ノ不穩宣傳文書、時々頒布セラル  
モノアルモ、對シテハ管內州縣警察  
官吏出張所リシテ支那郵便局ト協議  
ノ上、隨時押收シテ其傳播ヲ嚴重取締  
リ居ルモノナリ

二三、支那官憲、移住縣人ニ對スル態度

而地方ニ移住縣人ノ多數ニ對シテ、代ニ於テ支  
那官憲民トモ土地ノ發展上縣人ノ來住  
ヲ歡迎シ、敏化ヲ表示スル者ニ土地所有權  
ヲ與ヘ、又其他ノ者ニ對シテハ自由ニ權利  
小作契約ヲ為サシムル等、何レモ相當優

四、一、在鐵嶺領事館海龍分館

通レ来リタリ大正七八年ノ交、移住縣  
人増加スルニ伴ヒ、支那人地主ハ小作人ヲ求  
ムルニ從前ノ如キ困難ヲ感スルコトナリ、以  
テ俄ニ小作料ヲ上ケ、又荒地ノ良田ト  
ナリタリ見ケ、又返還セシムル如キ狡猾  
ナル手帳ヲ以テ縣人ヲ冷遇スル縣人側  
ニ於テモ、之ニ對抗スル種々、奸策業  
レシ地主ヲ欺キ、甚クシキニ至リ、其年ノ小  
作料始メ農業資金(農業資金トシテ收  
穫期近ク出流費、及農具代ト云フ)トシテ優  
入レタル負債ヲ支拂ハズ、逃走スルモノアリ、  
支那人對縣人ノ係争事件、各地ニ勃發  
シ、唯中ハ除根絶ナキ支那地方官憲ニ對シ

カ畑ニ堪ハズルモノ、如ク爾来地ニ余レテ土地  
契約ヲ制限シテモ移住朝鮮人ノ多クハ在實  
カニヤ作農ニシテ水田耕作上熟天恵的灌  
漑便下山同僻地ニ居住スル者ト異域等ハ  
支那地方官憲ノ保護行届カサルヲ考算ト  
レ最近朝鮮人農家ノ播奪スルニ多ク見モ五カ  
兩端ニ寧日トキ支那官憲ハ其都度帝  
國官憲ヨリ嚴重ニ抗議ヲ申込スルハ  
ハ愈々其畑ニ堪ハズルモノト思惟シ隣地  
主ニ命シテ新移住者ヲ阻止スルト同時ニ  
現ニ居住スル朝鮮人ニ對シテモ自發的退去  
心ヲ誘起セシメテ其種々少作人ニ不利  
ナル條件ヲ提出セシメテマナリ

四六 在鐵嶺領事館海龍分館

二四 鮮人支那官民ニ對スル感想

従来鮮人支那官民ノ優遇ニ感謝シ誠心  
誠意致意ヲ表シ居ルモノノ外其優遇  
等ニ對シテ支那官民ノ激越方極メテ冷酷ト  
ナリタルヲ不平ト思感スルヲ抱キ居ル  
モノ、如クナルモノ鮮人支那人ノ同情ニ極  
ムルヲサレバ生活ノ方途ナク高々總テノ屈辱ヲ受  
ケル感極メ融和ニ漏ラフナリ

二五 鮮人支那官民ニ對スル感想

帝國官憲ヨリ其都度救済金ヲ好メテ  
民會、學校、醫務寮等ノ補助金ヲ支給セ  
テ居ルモノトシテ鮮人同ノ優等事件ニ付テ  
モ桐油ノ保護及撫育ニ最善ノ努力ヲ盡

レ居ルトハ一都、不逞者ヲ除ク外ハ十分解  
レ相留餐叙意ヲ表シ飽直信頼セリトス  
ル念慮アルモノ、如クモモ如何セシカ敷キル  
我官憲ニ於テ、不逞野人、横暴根底  
アリ取締彼等、官憲ニ満足ソフルト能ハ  
ザルヲ以テ彼等ニ於テモ拒事情ヲ諒為レ  
法々不逞團ノ威歴ニ屈従ス、外ヲ  
去就ニ迷ヒ苦境ニ陥リ居ルヲ以テ帝國  
官憲ノ不甲斐ナキヲ罵リ徒々及感ヲ抱ク  
モノアルニ至レリ

在鐵嶺領事館海龍分館

ニ大、不逞野人ノ收斂及之ヲ取締状況  
當館管內不逞野人、大正九年帝國軍隊  
ノ討伐ニ依リ悉ク逃走者ナク、餘レ  
其故即チ軍隊ヲ揚故徐々ニ收束ス  
リ候テ元軍政署長、金東三、再々大韓  
統義府ヲ組織シ本都ヲ興、京師下ニ  
置キト今時ニ義勇軍第四中隊ヲ柳河  
柳三、深淵ニ派遣シ朝鮮人會ヲ解散  
セシムルト共ニ各般ノ施政ヲ行ヒ近キ將  
来ニ於テ朝鮮各地ニ侵入要路、大官  
ヲ暗殺シテ朝鮮獨立ヲ飾義ナラセシメ  
レカ否メ同下ニ準備中ナリト標榜シ  
大勢ニ勝テ愚昧ノ農民ヲ惑ハレ函ニ

名有り四五名一隊トナリテ「モ」セ止又ツカ  
 ニレカ「奉」儀ヲ携帶シテ金品ヲ瑞奪又  
 各種経済的宣傳ヲ為シテ一部若シテ  
 上層ノ時日ヲ定メテ數十元乃至百元ノ調  
 達ヲ強制シ一隊去ルバ又一隊来ル等度敷  
 ノ制禁ナルヲ徴収ノ苛酷ナルト到底困難  
 セルハ固農ノ堪ラトコトアラサレモ此ノ應  
 サレバ目前ニ於テ敵打シ甚クシキハ人皆下  
 レテ代表的人物ヲ拉致ス等此暴徒  
 其難ヲカトナキハ一隊野人ノ自包身  
 邊ニ危険ノ及ブヲ怖レテ哭ク哭ク其ノ  
 強要ニ應シ之ヲ始末リ一切我官憲屬  
 出ラナラシ得先悲慘ナル状態ニ入ラシテ  
 孰モ得来リ悲嘆シ中ニ他ノ安全地域  
 ニ避難セルト然レモノ不逞團ニ支那  
 ノ轉居ノ嚴禁シ甚シ背クモノハ死刑ニ  
 處スルニト脅壓ノキ飯ヲ構シ居ルモ其  
 現象リセニ不逞團カ一般野人ノ保護ヲ失  
 ハルニトシ證明スモノニシテ「評」言セハ一般  
 民心カ彼等ノ主義方策ノ是認ス難  
 及セルト然リテ防壁セシカ為メ講シル一機ノ  
 強ク手飯シモ其故民心離反ノ急劇  
 ハ日月ノ推移ト共ニ旺盛トナレヤ不逞團  
 中稍々大勢ノ事情ニ迫ラズ文治派幹  
 部ニ其論ヲ重視シ難キヲ惜リ本年三  
 月文武兩派幹部ヲ招集シテ對策

在鐵嶺領事館海龍分館

二付種々收議ノ事ニ對シテ鮮人激過ノ方針  
 少改善ノ見結果爾來禍患甚大其勢  
 激々於今之身不民意ノ趨向ヲ認ムル  
 モノ如ク管中ニ在任元令派軍人ノ軍費  
 金徴収ニ付テモ從前ノ如ク暴行苛迫ヲ  
 加クズ穩ルニ要求シ若シ即時ニ出金スル  
 コト能ハズル者ニ對シテ指定ノ期間内ニ額  
 滿ノ置ク標懸諭ヲ發シ鮮人ノ行爲  
 萬事從當ナル手飯ニ出ツル者ノ最近  
 被害ノ程度モ漸次減少シツテハハ嫌  
 可キ現象ナリ管外ヨリ(粵東)通化  
 梓回縣)時々侵入スル不逞鮮人ノ行爲  
 ハ甚モ從前ト異ル所ナク要棘ヲ標懸  
 此存出カ取締ニ付テハ能ク防テ支那側ヲ  
 警勵シテ取締ノ實ヲ示シ居ル事官憲  
 白國ノ軍賊取締ニ對シテモ仍ホ力及ラズシテ  
 奈命ニ疲レ居ル狀態ニ取締ヲ徹底的  
 斷行シ得テハ亦不得已治罪ナラ奉天  
 省長ハ本年四月十九日付者令リ以テ不逞鮮  
 人ノ殺害ヲ極力嚴禁スル令時ニ急地方  
 官ニ命ジテ嚴密ニ之ヲ取締リ實行セシメ  
 居ル事今度如何ナル慘劇性ヲ帶フル  
 不逞鮮人ト雖モ從前ノ如ク兇暴ナリ  
 逞クテ下ニ能ク并ルルコトナラズ去ル本月二日  
 粵東省ニ於テハ不逞鮮人(團)統義隊中央  
 部ト支那巡警トノ衝突ヲ甚クシテ支

四 五 在鐵嶺領事館海龍分館



那官民ノ感情ヲ密ニ厚キ各地トモ漸ク  
 暹羅人ノ敵視ニ力ヲ加シ親シバ共ニ  
 於テ更ニ取締ニ一歩ヲ進ムルト共ニ教育  
 醫務及貧民救済等ノ文化的施設亦  
 予民心ヲ塔發思慕ノ善導ニ努ムル於  
 テハ迄テ將來ニ於テ取締上偉大ノ結果ヲ  
 收ルニト取テ難事ニテラサレトモ精神  
 尚在ガ野人ノ被害及管内ニ出沒スル暹羅  
 一名称ヲ舉グルバ尤モ如シ(附録ノ詳表ヲ  
 照)

不逞團ニ依ル被害調(白人兵士五名)

一被殺者名數 三名

一被傷害者名數 四名

在鐵嶺領事館海龍分館

一被擄去者名數 一四名

一被擄奪金銀名數 詳一七〇名

備考右統計ニ被害者ノ中先及後

著スルテ豫見シ見ルニ一ニ計上トシ

之ノニ多實際ノ被害金銀額ノ右記ニ

取捨スル見込ナシ

不逞團及所在地調(大正五年六月調)

一 大韓統義府 興寧縣

一 今屬義勇軍 第四中隊(附長) 新河縣三津

一 西露軍政署 梅甸縣城外

備考 大韓統義府義勇軍第四中隊

長金鳴鳳ニ在梅ヲ興寧縣置キ初

河縣第一區(南山城子方面)ヲ管轄トシ

ヲ暴威シ置テ

西露軍政署ハ吉林省樺甸縣ニ根柢ヲ  
置テ附近各縣ニ出沒シ管内樺甸南樺甸

ニ七、不逞野人ニ對シテ支那官憲ノ取締收復

ハ統義有テ治安ノ上其勢力範圍トス

徒來支那官憲ノ不逞野人ニ對シテ向來的取締

ヲ為サントシテ我々ノ取締ニ對シテ尙然シ義

務ナリトシ能ク防テ之ヲ取締ハ努力シ来リ

免モ奔直歎年以來馬賊ノ猖獗シテ増

加スト是々之ヲ掃蕩方法モ一層要務ト

ナリ兼現出地方ニ駐屯軍警ノ一二テハ

之ヲ取締ニ仍チ力及レテ殆ト馬賊ノ乘

機ニ乘レ居ルハ状態トシテ我々ハ仍チ勿

論上司ノ命令モ不足ノ結果多クハ形式

ニ流レ何ぞ効果見ルヤキモノナレ

ニ八、馬賊ノ狀況及之ヲ取締狀況

徒來馬賊ノ猖獗義軍ト稱ス程規

律正シテ網民婦女子ニ對シテ侵犯セテ

ハシ道例トシテ来リ自奉直戰年以來其

數ノ増加スニ伴ヒ漸次兇惡シ置テらん

ニ至リ今以テ之ヲ討伐ハ有テ官兵出

入頻繁トナリ地方ニ居住ス資産家

ハ官賊兩面ノ被害大ニ堪ク不トシ遠

隔テ安全全地域ニ避難スモノ數カラズ

徒テ賊ノ猖獗ノ收入ヲ得ル能ハズ所

アリ網民婦女子ノ被害會同ニ難ク農

在鐵嶺領事館海龍分館

夫ヲモ侵寇ニ至リタルカニ對シテ  
 品物奪入質柱殺害、強行手取、徒  
 前資産家ニ對シテ敢行シタルトモ  
 異ルトナラズ然レモ野人、支那人、比、負  
 困乏多キ者、人質、代金、提供、願、  
 自然、如、願、ト、モ、彼、等、ハ、提、供、金、ノ、送、  
 上、ニ、重、キ、リ、置、キ、最、近、ハ、於、テ、  
 二、毒、中、リ、伸、サ、レ、ト、モ、備、向、  
 那、支、黨、ニ、之、リ、取、締、リ、要、求、  
 最近各地ニ多ク、軍隊、ヲ、駐、  
 居、ル、右、軍、隊、ヲ、討、伐、  
 以、此、機、會、ニ、集、レ、  
 腹、ヲ、肥、サ、レ、ト、モ、  
 意、見、モ、ノ、キ、ニ、  
 公務上、ノ、死、傷、者、  
 救済、ノ、  
 之、モ、ノ、  
 保甲、隊、  
 最近、  
 於、テ、  
 虐、事、實、  
 實、ニ、  
 官、憲、  
 文、法、  
 能、  
 刑、例、  
 保護、  
 不行、  
 角、  
 責、  
 又、  
 控、  
 察、

甲 八

在鐵嶺領事館海龍分館

賠償ヲ要求スルトモ事情如斯モノナ  
 レハ事實密ニ於テ效果ヲ收メ得サルモノナ  
 ヲトモ強ク之ヲ争フ場合ニ於テハ  
 在る爲野人ニ不利ヲ墮ルルモノナキリ保  
 セバ如何レバ野人農夫ノ居住地何  
 モ僻隘ニシテ常ニ馬賊ノ出没頻繁ナル  
 土地極テハ都邑ニ居住ノ自國民サハ保  
 護シ能ハズ支那官憲ニ對シテ以上ノ  
 要求ヲ爲ストルモ事實ニ於テ斷行し得  
 ズ結局其煩ニ堪ヘズ野人ノ居住居候  
 ヲ現在以上ノ嫌忌ニ至ルヲ斯クテハ  
 多年ノ苦心ニ俾ル水田事業茶葉遺基  
 礎モ破壊セラルト今將ニ野人ノ居住地  
 四九 在鐵嶺領事館海龍分館  
 方居住ニ層困難トナル事アルコト今  
 後ハ野人自身ソレヲ比較的危除カテ  
 地域ニ居住セシムト其ニ支那官憲  
 ニ對シテハ之カ保護ニ最善ノ努力ヲ爲テ  
 標榜的智勵シ去リ他ニ方法ナ  
 カルヲ而シテ大正十二年六月ヨリ本年五月  
 ニ至ル野人ノ馬賊被害及目下各地地方ニ  
 政ニ應ゼン馬賊團名等ヲ附録七紙表  
 ニ掲シテ參照スルニ可シ  
 二九 支那警備機關配置状況  
 奉直戰爭收場後、數甚クシテ增加  
 地方良民、被害ニ罹ルモノ強クテ故  
 警ニ宜シキ状態ニアリテ支那官

憲ハ奉直和議協定ト軍隊ヲ各地ニ  
派遣シ案ヲ馬賊ノ取締ニ任シ居ルカ概  
軍隊ノ能率ハ馬賊状況ノ増減ニ詳述セ  
ル間ニ何等成績ノ見ユキモノナク討伐ハ  
名ヲ藉リ却テ地方ニ在馬克良民ヲ金品  
ヲ徵集スルヲ能中トセルモノ如ク今管内ニ  
駐出セル軍隊等ヲ募集用クレバ附屬ノ新  
表ノ間リ

三〇、支那軍隊、鮮人保護、良否

内地地方ニ駐在スル支那官憲ハ自國民ノ  
保護サハカス及奔命ニ疲レ居ル状態ニ  
シテ朝鮮人ニ對シ保護ノ行所ニ道理ナク  
何事モ傍觀シ居ル者ト夫レ大ニ利害得

五〇

在鐵嶺領事館海龍分館

失マテカリレカ最近各地ニ馬賊ノ出没頻  
繁トナリシ以テ地方ニ駐在スル軍隊ハ  
馬賊討伐ニ出動スルニ徵集スル名ヲ藉  
リ在馬鮮人ノ金品ヲ掠奪シ又ニ婦女子  
ヲ弄フ等馬賊ノ被害アリ案ニ官兵ノ  
被害大ナルモノナレバ官兵ノ頻繁ニ出入  
ル地方ニ在馬克鮮人ノ官兵ノ為メ生活  
上ノ根底ヲ失ヒ悲慘ノ状ニ沈淪シ  
居レリ

三一、在馬鮮人、保護、取締、官憲、良否

管内ニ在馬鮮人ノ職業及生活状  
態ニ付テ、已ニ各主要項ニ於テ詳述セ  
リ其多ク先任ノ親族知包リ便ク若クハ

滿洲ニ於テ水田事業ノ有望ナルヲ聞知シ  
漫然渡来シテ其資本力ハ小作農ニテ平  
常ニ於テモ生計豊カナラザルモノナリ故ニ  
前ヨリ侵入スル不逞野人ノ擄奪ニ因テ殆  
トト利賦ノ金新リ失ハ其上最近ニ於テハ  
土地借リ入レモ困難トナリヤ作契約モ漸  
次期間リ短縮セラレタリノミナラズ我ニ小  
作料ヲ上ルニ等數年前ノ如キ有利  
ナラス其上水田事業亦甚ク其ノ害ヲ  
ハ出活費、農具、租糧ニ至ル迄皆其害  
ノ金利ヲ附シテ地主其他ニ支拂ハレ  
ラザル不利ノ境遇ニ入リ以テ數年前今ハ  
ノ留折ニ居候者ナク余リ遊牧ノ民ニ

五 一

在鐵嶺領事館海龍分館

化スニ至ルヲ急シ夫レ其際適宜關係  
護リ得ク不爲徒成行ニ委レ置ラレバ  
生活ノ困難ヲ思慮シ惡化シ得ル也  
義導ニ一層困難ヲ来ラザルニ帝國  
政府ニ於テ數年前より其等ニ對シ多  
額ノ補助ヲ與ヘテ中要ノ保護救済ノ努  
力セラレタラス尙勝ハ不逞野人跋扈甚ク  
シ野人ハ彼等ノ脅威ニテ轉相ノ急情怯  
シ一層露骨ニ擄奪シテ以テ大ニ効果ヲ  
認メ得ザルモノ最近ニ於テハ不逞輩モ漸次  
民心ノ離反スルニ鑑ミ白ラ覺醒シテ農  
業ニ從事セトスルモノ數ナラザルモノ  
前年ノ  
面ト農業者資金ノ借入レニ困難ヲ来ス

ルニ係ル際、鮮人ノ發展基礎ニ水田事業  
ニ對シテ之ニ積極的援助ヲ與フルハ一般在  
野鮮人ノ生活ヲ安全ナラシムルノミナラズ  
不逞鮮人ヲ同化懷柔スルニ於テ刻下  
ノ急務ナリト思考スルニ係ルハ當面ノ  
施設ニ必要事項ヲ列舉シ以テ當局者  
ノ顧慮ヲ仰カントス

(1) 水田事業ニ對シテ保護

土地高租及十年以上ノ租借契約ハ  
前項各種ノ事情ニ依リ全然禁止ナ  
キモ貸付金法ニ依リ數年以下ノ契約  
ニシテ年々契約ヲ更新スルニ於テハ當  
地方ノ支那官憲モ全然禁止シテ

五

在鐵嶺領事館海龍分館

ルモノニアラザルモ彼等ノ多クハ租費力ナ  
シ故ニ本契約ニ依リ得ザルニ係ルハ後  
之等ノ良鮮農ニ對シテ民會長  
又ハ土地ノ有力者保証ノ下ニ必要程  
度ニ於テ低利貸付金ヲ貸付シ耕作  
ノ收穫ヲ俟テ返還セラルトス

(2) 金融機關ノ設置

鮮人ノ水田經營ニ於テ最モ苦痛ヲ感ス  
ルニ困難セルハ資金ノ乏ニ係リザルニ  
當管區ニ田中鮮人ノ組織ニ依リ東  
山興業公司(株式會社)資本金ヲ洋拾  
萬元ニ定メ(掛込)アルニ基礎確案  
ナラザル鮮人農家ニ一切貸付ツザル

リ以テ不得己支那人地其其他より高利  
ノ資金ヲ借入レ收復後返滿スル其  
收入ニ於テ一年ノ生涯費ヲ費制ス  
リ海軍ニ忠忱ノ境通ニ隔リ居ル者多ク  
アレバ政府ニセカ救済機関トシテ當館員  
者ノ下ニ資金金一カ五千圓程度ノ金  
融組合ヲ設置シテ支那人農工業ノ  
發展ノ圖ルコトヲ要ス

(一) 巡回施療ノ施行

在為縣人、醫療機關トシテ、柳河極不  
明北山城子ノ三個所ニ朝鮮總督ヨリ  
醫師三名ヲ派遣シ、縣人ノ診療ニ從事  
セシメ居ル也。又、醫師ノ都市ニ居住ス

五三 在鐵嶺領事館海龍分館

ル縣支人ニ對シテ診療ヲ施スノコトヲ漸  
次地方ニ在居居候ルニ會同シ、縣人ニ對  
シ巡回施療ヲ行ヒ、來リタル者ニ對シテ、衛生  
思想ヲ傳達スルト共ニ帝國政府文化  
施設ニ取意リ、縣人ノ最近再賦ノ  
跋扈甚クシテ、醫師ノ單獨旅行難ク  
ニ不可能トナリ、右醫師ニ對シテ、現任地ニ  
於テ診療ヲ求ルルニ對シテ、巡回施療ヲ  
施シ居ルニ、縣人ノ多クハ地方ニ在居シ、且  
シ醫藥ヲ購フ資金ナキモノ、ミテハ、醫師  
ノ醫術ニ對シテ巡回施療ヲ為サレムルニ、縣人  
保護及同化セシムル上ニ、於テ最モ必要ナ  
ル方策ナリト、雖モ現任醫師ニ對シテ



平沼ノ会社ヲ醫施療ニ授シ生張ノ程度  
護衛トシテ支那止境ノ在リ餘額ナキ自  
此回施療ノ補助金ハ能ハサル事情  
ニ付今般右醫師ニ對シ平沼ヲ増給ス  
カ若クハ護衛兵リ附スル毎ニ實費ヲ支  
給シ此回施療ノ補助金以テ僻陬ノ地  
マラ治ル帝國ノ徳化ニ浸潤セリルハ現在ニ於  
ケル思慮ノ至極ト勿論野人保護上ニ於  
テ最モ中要ナル方策ト思考ス

(二) 教育機關ニ對シ補助金ヲ増給ス

在野野人教育機關トシテ管內ニ野人  
結成ニ學校十八回アルモ右ノ中本年度  
補助金ヲ支給セラレタルモノ僅カニ六

五 四 在鐵嶺領事館海龍分館

校ニ過イテ而シテ補助金ヲ受ケザル他ノ  
諸學校ニ於此レハ内容整頓レテ居ラザルハ  
付帝國政府ノ處置ノ公平ナラザルハ憤  
慨スル者歎カラザル所今般右之等ノ學  
校ニ對シテモ實際ノ成績ニ徴シ在滿  
ノ補助金ヲ與フニ於テ一般ノ向學心  
ヲ旺盛ナラシメント共ニ學校教育ニ日  
リ民心ヲ啓蒙スルノ大志ニ  
アルヲ

(三) 朝鮮人會社有知ナラシムルヲト

在野野人ノ利益ヲ増進シ且ツ相互救済  
親睦ヲ圖リ其發展ヲ促進スルニハ朝鮮  
人會社活動ノ最モ必要トス然ルニ現在ノ

朝鮮人會(海龍)平野ノ置キ想南極子  
 明柳河北山城子、南山城子ニ支那ノ置キ  
 中本教ノ會長(支那會長)朝鮮總督  
 府ヨリ俸給ヲ受ク)ノ除ク外ハ若干ノ補助  
 金ヲ受クルモ各他トモ無ク反給學困難  
 ナル者ト補助金ハ急ク學校校給學  
 ニ充用シ支那長以下殆ク全救助  
 ニテ在焉者ト為メニ御ウケ如キ状態ナレ  
 バ何等成績ノ具ルコトモナク隨テ今後  
 ハ支那役員ニ官署ノ一是ノ俸給ノ支  
 給ニ専心民會事務ヲ鞅掌セシム  
 ル外支那官民及地主等ニ對シテ地ノ  
 貸借其他ニ交渉ヲ為サレメ帝ニ彼  
 我ノ連絡ヲ樹立シテ協議ニ不棄セシ  
 ムルニ於テハ鮮人ノ發展ニ資スルコト大ナ  
 ルヲ而シテ也カ役員ニ地方ニ於テ鮮人支  
 人間ニ赤キ眼ヲ信用スル有方ト鮮人選  
 定スルコトヲ要ス

(ハ)不逞鮮人ニ對スル取締  
 不逞鮮人ノ帝ニ各地ニ生没シテ我官保護  
 ノ取締緩漫ナルニ集シ愚民ヲ煽動シ  
 テ思慮ノ悪化ヲ招キ又ニ之等ヲ會  
 ヲ抑奪スル等良民ノ發展ヲ阻礙ス  
 以下大ナリ以テ之等ニ對シテ絶  
 對ニ嚴密ニテ之ノ要アリテ徒前ノ如ク  
 不逞鮮人ニ對スル取締ノ如キ也

在鐵嶺領事館海龍分館

敵ニテハ何等結果ヲ收メ得ザルノコトヲ知  
テ彼等ヲシテ不逞行動ヲ勵長セシムルニ至  
ラズニシカク中留事項ニシテ記ス

(1) 不逞新人、根據地若クハ頻りに出入ス  
ル地方ニ時々警察官ヲ派シ之ヲ取締  
リテ同時ニ統一彼等ノ行動ヲ嚴  
守シ帝國官憲ノ威カシキ事ヲト

(2) 警察官ノ常ニ地方駐在ノ支那官憲  
ト直接面接シテ意思ノ疏通ヲ圖ル必  
要ニ堪合ハズ支那官憲ノマシテ直接  
支カ西締リ為サシメ又ハ共同取締ニ從  
事スルコト

(3) 近時一般ノ民心不逞團ヲ離散シ不逞  
團ニ漸次覺醒セテ下ニ氣風ニ付

新人ノ居候ニ於テハ時々警察官  
ヲ巡視セシムルコト共ニ之ニ改悟ヲ期シ  
ル不逞新人ニ對シテハ懇篤ニ説明シ  
シ之ヲ懐柔シ圖ルコト

五六

在鐵嶺領事館海龍分館